

119番通報を受けてから救急車到着までの時間は？

町内平均 **7分14秒** (上ノ国消防署調べ)
※平成27年1月1日～6月11日まで

素早い対応が、報われる可能性

心停止などの緊急的な状況において、居合わせた方などによる初期の救命処置は、**救急車が到着してから行われる処置よりも**大きな意味を持っています。

●全国で一般住民により行われた心肺蘇生の状況とその後の経過

現場で心肺蘇生が実施された傷病者	2,674人
” 実施されなかった傷病者	2,099人

1ヶ月後生存 = 961人(35.9%) / 1ヶ月後社会復帰 = 675人(25.2%)
” = 574人(27.3%) / ” = 350人(16.7%)

※平成25年度 救急・救助の現況（総務省消防庁）より抜粋

救命は時間との戦い

心臓や呼吸が止まった人が助かる確率は下のグラフにもあるとおり、救急車が来るまで何もしない場合、倒れてから**3分後でわずか20%少々、救急車が着く頃には10%程度**になります。

そして、脳細胞は心停止から**わずか3分で死に始め、社会復帰率が激減します。**

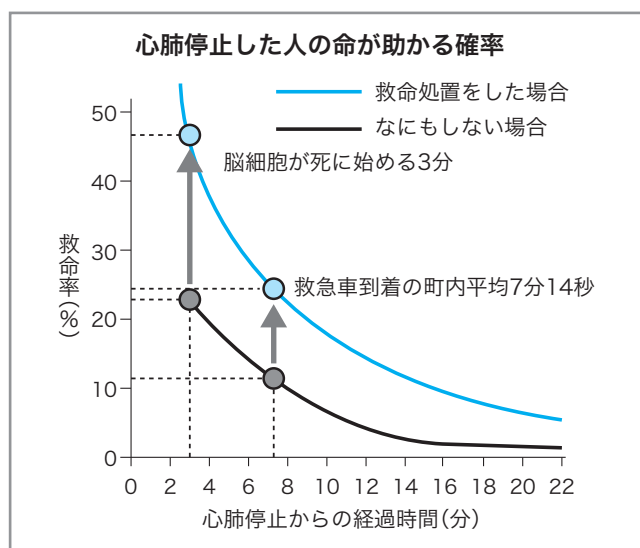
湯ノ岱から小砂子までの広大な土地を有する本町であれば、3分で救急車が到着することなどまず不可能です。

つまり、近くに救命処置を行える人がいるかどうか、その人の生死を決めるといっても、決して過言ではありません。

また、その場の蘇生が無くとも、**心臓をマッサージし続けることは血液を循環させて、血中の酸素を脳に送る効果があり、救命やその後の社会復帰に大きな影響があります。**

さらに、ドクターヘリの登場による搬送時間の短縮は、**初期の救急処置が十分であれば、これまで間に合わなかったものが間に合うようになるかもしれないという大きな可能性も持っているのです。**

(ただし、ドクターヘリは夜間および悪天候時運行不可)



本町の救急搬送件数(心肺停止)

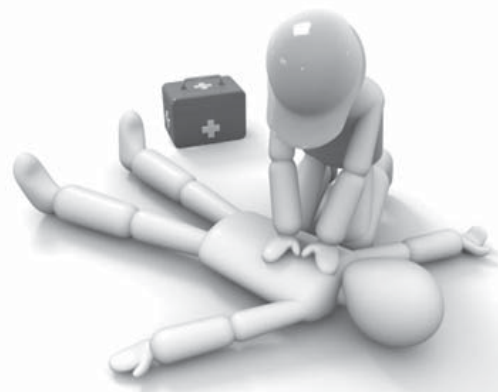
平成26年	4件
平成25年	7件
平成24年	6件
平成23年	6件
平成22年	7件
平成21年	11件

ドクターヘリ 要請状況(2～5月)

上ノ国町	2件
江差町	8件
乙部町	0件
厚沢部町	2件
せたな町	4件
今金町	1件
奥尻町	5件

これらのデータが示すとおり、そこに居合わせた人が心肺蘇生を迅速に行うことは、想像以上に重要なことなのです。

このことから、居合わせた一般人が行う救命処置は【**1次救命**】、到着した医療関係者が行う救命処置は【**2次救命**】と呼ばれ、専門的な見地からも初期の対応が重要視されています。



特集

初期救命処置の重要性！

ドクターヘリ導入で変わる救命時間

これまで、本町では緊急的に迅速な救急搬送が必要な場合であっても、どうしても病院までの搬送に時間がかかる状況にありました。
しかし、重篤患者が病院に搬送される時間が、ドクターヘリの登場によって大幅に短縮されたことから、初期の救命処置を迅速に行うことで、命を救える確率が大きく高まることが期待されています。
近年、町内では救急搬送されるケースが増加傾向にあり、今回特集する救命処置は、家族や身近な人を助ける上でとても重要です。